

自由民主党多賀城市議団を代表いたしまして、議案第 51 号、第 52 号、第 53 号、第 55 号について、賛成の立場から討論いたします。

令和 6 年度は、多賀城創建 1300 年記念事業を全国に発信した、まさに歴史的な一年となりました。

令和 6 年 8 月 27 日には多賀城碑が国宝に指定され、さらに令和 7 年 1 月には宮城県より政庁復元構想が示されました。これは長年の積み重ねが実を結んだ成果であり、市民の誇りを一層高める出来事であったと感じております。

令和 6 年度の財政面を見ますと、一般会計の歳入は 332 億 8,673 万円、歳出は 328 億 3,853 万円。実質収支は 2 億 5,309 万円の黒字、単年度収支も 1 億 3,045 万円の黒字を確保しました。これは令和元年度以来 5 年ぶりに、財政調整基金を繰り入れたことにより黒字となったものですが、市として様々な事業に取り組んでいる中、物価高騰、扶助費などの社会保障関係費、人件費が増え続けている中で実質的な赤字が約 5, 000 万円で済んだことは健全な財政運営が行われた証と言えます。

特別会計においても、実質収支で 1 億 2,615 万円の黒字を計上し、全体として安定した財政基盤が確保されました。

歳出をみますと、文化センター改修工事の完了や山王小学校の工事繰越により教育費は減少しましたが、その一方で、物価高騰対策の給付、防災行政無線再構

築といった、市民生活を守るための事業に重点的に取り組みました。さらに、中央公園魅力創造事業として Park-PFI 方式によるスケートパーク整備を進め、学校施設の長寿命化や公共インフラの更新など、将来世代に向けた投資にも力が注がれています。

また、こども家庭センターの開設や就学援助制度の拡充、特別支援教育システム導入、さらにはチャレンジ雇用の実施など、子育て支援から障がい者支援まで幅広い市民生活を支える取り組みが展開されました。地域共生社会を目指して地域カルテが作成・更新され、共生社会シンポジウムも開催されるなど、誰一人取り残さない社会への歩みが進められています。

特別会計では、国民健康保険特別会計において 2 億円の基金取崩しを行い、増加する医療費に対応しました。介護保険特別会計でも給付費の増加が続く中、持続可能な制度運営が進められています。

水道事業では、給水戸数 25,672 戸、給水人口 55,404 人を対象に安定的な給水を行い、減免の影響もありながら、有収率 95.22%と高い水準を維持しました。純利益は 1 億 6,466 万円を確保し、正味運転資本残高は 14 億円を超えるなど、健全な経営が続いています。老朽管更新や耐震化、鉛製（えんせい）給水管の解消など、将来に向けた取り組みも計画的に進められています。

下水道事業については、営業収益 18 億 3,764 万円に対し営業費用 26 億 632 万

円で赤字となりましたが、営業外収益を含めることで最終的に 2 億 5,293 万円の黒字を確保しました。汚水処理の有収率は 86%、経費回収率は 87.9%と課題はありますが、汚水管の更新やポンプ場の改築などストックマネジメントを着実に進め、事業の持続可能性を高めています。

そして、令和 6 年度を象徴するのは、やはり多賀城創建 1300 年記念事業であります。

11 月 1 日に開催された記念式典では、古代の儀式が再現され、「不変の価値」と「新しい価値」の融合をテーマにしたアートプログラムが披露されました。アマテラスの天の岩戸隠れからの復活を描いた舞台は、東日本大震災からの復興とも重なり、市民に深い感動を与えました。

また、新時代の創作オペラ「いしぶみの謡（うた）-多賀城創世記-」では、「天地始めて開けしとき」という、まさに多賀城創建と同じ時代に編纂された古事記・日本書紀の言葉に始まり、多賀城の起こりを象徴的に描き出しました。市民とともに歴史を振り返り、本市の文化的価値を改めて確認する貴重な機会となりました。

さらに、この記念事業を締めくくった SILK ROAD RUNWAY 2024 では、山本寛斎事務所の協力を得て多賀城で初めてのファッションショーが開催されました。不易流行の精神のもと、ファッションを通じて多賀城から日本へ、そして世

界へ文化を発信する舞台となり、政庁跡や南門の新たな活用方法を切り拓く契機ともなりました。

多賀城創建 1300 年記念事業を総括すると、参加者数は延べ 54 万人を超え、その成果が令和 6 年度の本番の年に大きく結実しました。

これら一連の取組を通じて、誇るべき多賀城の歴史や文化の価値を市民と共有し、未来へとつなぐことができました。

令和 6 年度は、まさに「文化観光元年」と呼ぶにふさわしい一年であったと、改めて確信いたします。

以上の理由から、私は議案第 51 号、第 52 号、第 53 号、第 55 号に賛成いたします。